

令和4年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 上級調理経営学科・調理師科

令和4年度学校関係者評価委員

■保護者

大石 圭子 様（上級調理2年 大石健二君 保護者）

■企業関係者

竹内 佑騎 様（株式会社 竹屋旅館 代表取締役）

■他校関係者

堀池 悟 様

（中央歯科衛生士調理製菓専門学校 調理製菓総合学科 学科長）

1・教育理念・目標

【自己評価結果】	平均
----------	----

1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	B
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	B
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A

【現状の問題点】

単年度の目標設定には先ずディプロマポリシーを中心にカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが十分に教職員に浸透されている必要がある。カリキュラムマップも策定されていることから、日常的に目標を意識する仕組みがあるとよい。

【改善のための方策】

ミーティング時に組織目標やカリキュラムマップを確認する機会を増やすことで教員のベクトルを合わせて効果を上げたい。クレドの唱和を継続し、学生への浸透に効果を上げたい。

【関係者評価】

企業でも理念を従業員に浸透させる取り組みをしている。理念や目標に関連した事例を見せることで効果が上がる。身近にクレドがあることは個人に浸透しやすい。道徳力を身に付ける目的で「職場の教養」を使用していることは賛成。

2・学校運営

【自己評価結果】	平均
----------	----

5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	B
9	組織内の連携は適切に図られているか。	B
10	上司の指示は適切にされているか	B
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	B
13	BSCは適切に活用されているか。	B

【現状の問題点】

Dxによる業務の効率化は積極的にグループ校の活用事例を参考にするなど教職員の日頃の意識が重要である。BSC(バランス・スコア・カード)の策定にあたっては、上位者評価・学生アンケート・自己点検自己評価などの結果をフィードバック、フィードフォワードして具体的な施策を決めていく等の細かい目標づくりを目指す必要がある。研修については研修・評価ワーキンググループが活動中であるため、協力意識を啓蒙していく必要がある。

【改善のための方策】

グループ校での活動や情報を実際の職場に活かすことで職員教育や指導、意識の向上に繋がると考える。BSCは策定だけでなく、状況に合わせて更新し、現状とのずれを防ぐ。

【関係者評価】

普段と違うメンバーとの業務から自己の立場を見直す効果がある。スキルを持った職員が揃えば教育効果は上がるので職員研修は必須であると同時に研修目的の精査も重要。

3・教育活動

【自己評価結果】

	平均
14 授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	B
16 資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	B
17 資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
18 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19 目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20 職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	B
20 シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21 シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22 教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23 十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	B
24 学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A

【現状の問題点】

最重要である調理師免許は国家試験免除であるだけに、知識・技能両面に於いて学内での評価体制が重要である。学生アンケートにより学生からの授業評価とそれに対するフィードバックは行われているが、更に組織目標や個人目標にまで落とし込んでいく必要がある。レストランサービス技能検定などその他の資格は合格率を上げている。シラバスの見直しも月単位で実施されており効果を上げている。

【改善のための方策】

取り組みの前に目標と狙いを確認して実施、反省との流れは継続する。シラバスの見直しも継続して行います。コロナ禍で実施出来なかった職員研修も計画的に実施したい。

【関係者評価】

能力向上のための職員研修は重要だが効果を上げるための計画的な人選と実施が必要。各取り組みの目的を事前にしっかり説明することは大事。行事の準備は十分なのか検討し直す必要がある。

4・学修成果

【自己評価結果】

	平均
--	----

26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	A
【現状の問題点】		
就職に関しては、就職率だけでなく就職先の質も上がっており、離職率も下がっている。令和4年度は在校生だけでなく卒業生も閲覧できる独自の求人サイトを立ち上げるなどした。退学者は入学時から学校生活へ馴染めるか、志望が明確かなど心配だった学生が多いが、早期に対応する仕組みづくりが大切と思われる。		
【改善のための方策】		
今年度は退学率の低減に成果を上げた為、同様の取り組みを基本に次年度の学生に対応する。問題の早期発見と早期対応は重要と考えております。入学前講座は入学前の学生の様子を把握する貴重な機会となっている。		
【関係者評価】		
各学生に自分の性格シートのようなものを書かせ、そこから性格や考えを探る方法もあるのではないかと。就職はマッチングが大事なため日頃の職員の対応を共有しておく必要がある。		
5・学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
いずれも高い評価になっており、日常業務でこの項目への自覚が高いのはとてもよい。客観的な数値との比較も重要なため、学生アンケートの同様の項目での評価結果を十分に踏まえない。学校行事や授業科目で目標や目的を十分学生に話すことを励行することが必要。		
【改善のための方策】		
概ね高い評価を得ているのでこの水準を維持します。		
【関係者評価】		
評価の継続を重視する。		

6・教育環境		
【自己評価結果】		平均
33	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】		
教育機器の更新と追加整備は怠りなく実施している。教育に必要な機器は十分に整っていると思われるが、教育内容の変化に応じて検討しなおすことが重要である。		
【改善のための方策】		

現状では不足していると感じていないが状態を維持するための使用方法、管理等教員と学生共に意識づける。業界の現状を知り、必要な部分を検討する。

【関係者評価】

現場でも維持するための使用方は力を入れている。理解している者は評価が高い。

7・学生の受け入れ募集

【自己評価結果】

平均

34	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A

【現状の問題点】

充実した質の高い私学教育を実現するには学生募集が重要であることを教職員がよく理解し、協力して実践していると言える。静岡校の教育の特長を十分に伝えて欲しい。

【改善のための方策】

職員全体で募集にあたる意識は持っている。評価は高いが結果的に定員を満たしていないので定員の充足に意識を向ける。

【関係者評価】

現在の入学希望者の重要視していることは何かを把握することは大切。今後の少子化を迎え、どう対応するか具体的な指針が必要。

8・財務

【自己評価結果】

平均

38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A

【現状の問題点】

現状は十分な学生数が確保できており安定していると言えるが、長期的には賃貸の校舎である点も考慮すると一定数の学生数を継続して確保することが重要になる。効率的で無駄のない資金の活用を心掛けたい。また、予算の執行に関しては消耗品費や教材費に無駄がないように定期的に確認したい

【改善のための方策】

昨年より在庫管理が出来ていた。物価の上昇を踏まえて予算の組み立てが必要になる。月毎の執行状況を担当者と確認し、情報を共有する。

【関係者評価】

現在の物価がどう上がっているか学生に対し、具体的に知らせる必要があると考える。取引業者を増やすなどの工夫が必要である。

9・法令等の遵守		
【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
個人情報とは年1回の溶解による書類の処分を実施しており、デジタルデータに関してもネットワークと個々のPCの両方でセキュリティを確保している。但し、教職員の個人情報データについてのリテラシーは今後も研修を継続していくことが必要。ハラスメントはこの2年間は十分に委員会が機能していなかったため、今後は委員会活動を活発化させる必要がある		
【改善のための方策】		
各教職員の個人情報管理の仕方、管理場所等を今一度確認し、徹底する。		
【関係者評価】		
ハラスメントは企業でも重要な部分となり、支援機関に依頼して社内研修を実施している。社外、学校外に相談窓口を設けることが必須である。		